



草花苑の福泉加奈さん

介護人材難は、介護業界の大きな課題の一つ。世間の介護に対するマイナスイメージは、養成校で介護を学ぶ学生の意識にも悪影響を及ぼしている。社会に広がる偏ったイメージを払拭するために、年齢や心理的距離の近い若手職員が学生に介護の現場の実際、やりがい、仕事の魅力を伝えていくことが必要ではないか。それがひいては人材不足対策につながる——法人の垣根を越える取



栄光の杜の西川奈緒美さん

り組みは、こうした思いから始まった。「スタートは平成26年。近隣で親しい付き合いのあった栄光の杜と増戸ホーム（東京都あきる野市、社会福祉法人白百合会）に声をかけました。各施設3名ずつ計9人の20代の若手職員を集めて実行委員会を組織し、キャンプの実施など活動の方向性を示しただけでなく、あとはすべて実行委員会に任せました」と、発起人である草花苑の赤木真副施設長は振り返る。実行委員会は具体的活動として、1泊2日の介護体験キャンプ

「さんえんキャンプ」を企画。実行委員が自ら介護福祉士の養成校を訪れ、説明会を行った。「最初は本当に手探りの状態でした。リストアップした養成校に『こういう活動をしているので、話を聞いてもらえませんか』と電話しても、結構門前払いされたり、ポスターを貼らせてもらうのも拒否されたりしました」と、栄光の杜の西川さんは話す。草花苑の福泉さんも「多摩地区を中心に大学や専門学校を40校ほどあたりまわした。最初、実際に話を聞いてくれたのは5、6校程度です」と打ち明ける。それでも実行委員がめげずに養成校に足を運び、実習との違いなどを考えを担当者へ直接伝えることで徐々に趣旨が伝わり、学生を参加させることの危惧や不安が和らいでいったという。現在、同キャンプは年に2回実

施（平成27年は3回）。これまでの3年間で計7回実施し、参加した学生は延べ77人。説明会に参加した学生は延べ250人にのぼる。
本音で語り合い、利用者の思いに共に寄り添う
1泊2日の「さんえんキャンプ」の1日目は施設見学で、昨年は草

社会福祉法人ほうえい会
特別養護老人ホーム 栄光の杜
〒190-0182
東京都西多摩郡日の出町平井3052
TEL:042-597-1536 FAX:042-597-1920
URL: http://www.eikounomori.or.jp



社会福祉法人溪流会
特別養護老人ホーム 草花苑
〒197-0802
東京都あきる野市草花 1980番地
TEL:042-559-8131 FAX:042-559-8173
URL: http://www.keiryu.or.jp/



20代の若手職員が主体となって 偏った介護のイメージを払拭

受賞取り組み紹介

キャンプの趣旨を粘り強く
伝え、学生側の不安軽減

法人の垣根を越えた協働で 「介護の魅力」を学生に伝える

科学的介護の実践を提唱した故・中村博彦氏の功績を讃えて創設された「中村ひろひこ賞」。5回目を迎える今年、「平成29年度全国老人福祉施設研究会議（高知会議）」での実践研究発表のなかから、社会福祉法人溪流会特別養護老人ホーム草花苑（東京都あきる野市）と社会福祉法人ほうえい会特別養護老人ホーム栄光の杜（東京都西多摩郡日の出町）が共同で受賞した。授与式の様子と、その取り組みを紹介する。



福島智子広報委員長と、草花苑の福泉加奈さんと栄光の杜の西川奈緒美さん（左から）

第5回 中村ひろひこ賞授与式 “未来の仲間”を引き寄せる「介護体験キャンプ」 草花苑と栄光の杜が共同受賞

特別養護老人ホーム草花苑と栄光の杜の2施設の手を携えた取り組みが、第5回「中村ひろひこ賞」を受賞した。その授与式が1月22日、栄光の杜で行われた。全国老施協の福島智子広報委員長から発表者の介護職員・福泉加奈さん（草花苑）と西川奈緒美さん（栄光の杜）に賞状と奨励金が手渡され、授与式会場は集まった関係者・職

員からの温かい拍手に包まれた。発表テーマは、「介護職員が学生に『介護の魅力』を伝える」他法人協働で目指す「未来の仲間」への呼びかけ。福泉さん、西川さんたちは「介護人材難対策のため、将来ともに働く仲間となる学生に、現場の介護職員が介護の魅力伝えていくことが必要ではないか」と考え、20代の職員を中心に介護体験キャンプを企画し、実施した。福島委員長は祝辞で、「このテーマは、全国老施協はもとより、すべての介護施設にとって重要なこと。現場の人がきちんと課題に向き合い、とてもわかりやすい素晴らしい発表にまとめられました。介護の魅力伝えるこの取り組みのように、すべての施設が、人材不足を嘆くのではなく、後継者を自分たちの力で引き寄せていくべきだと思います。こうした期



社会福祉法人ほうえい会の荒井典枝理事長（前列中央）、栄光の杜の三嶋奈奈施設長（前列左）、草花苑の赤木真副施設長（前列右）ほか、受賞を喜ぶ両施設の関係者の皆さん

待も込めて、中村ひろひこ賞に決定しました」と讃えた。社会福祉法人ほうえい会の荒井典枝理事長は「職員たちは本当に熱心に夜遅くまで討議を重ね、発表をまとめてくれました。頑張った成果が今回の受賞につながりました。昨年まで施設長として皆の活動をつぶさに見てきましたので、本当にうれしいです」と喜びを表した。

学校関係者の声



活動の草の根が広がるよう
サポートしていきたい

学校法人東京YMCA学院 東京YMCA医療福祉
専門学校 介護福祉科 学科長/看護師・介護支援専門員
倉持有希子さん

草 花苑が当校の実習先だったことから、「さんえんキャンプ」の取り組みを知りました。活動を発表した福泉さんが当校の卒業生という縁もあり、3年前から当校で取り組み内容を説明してもらい、「行きたい」と思った学生が毎年5～6人ずつ参加しています。

参加した学生からは「言いにくいことが言えるし、聞きにくいことも聞けて良かった」という声をよく聞きます。学校での勉強が何に役立つのかがもう一つよくわからない学生も、キャンプに参加することで現場に触れ、「こういうことなのか」と腑に落ちるため、以前にましてはつらつと学ぶようになります。企画する若い職員さんも、責任感が言葉に表れてきたり、話し方が上手になったりと、変化が生じてくるのが印象的です。

今後、高校にも活動を広げていくなど、いろいろチャレンジしていくと聞いています。「介護をやりたい」という純粋な気持ちを育むこうした活動を若い人たちが続けていけるように、その草の根が広がるようにサポートしていければと思っています。

評判を聞き自らもキャンプに参加
実習では得られない気づきが

学校法人敬心学園 日本福祉教育専門学校
介護福祉学科 専任教員/介護福祉士・介護支援専門員
浦島秀之さん



他 の学校が参加している知り、その取り組みに感銘を受け、ぜひ当校の学生も送りたいと考えました。2年間で10人弱の学生が参加しています。学生から「楽しい」と聞き、自分の目でも見たいと思い、私自身も昨年のキャンプに参加しました。実際に参加してみて、昔参加した社会福祉協議会のワークキャンプを懐かしく思い出しました。施設の見学会はどの学校も行っていると思いますが、入居者の夢をかなえる取り組みなどは珍しいのではないのでしょうか。

介護福祉をめざす気持ちの根本を見つめ直し、今後の方向性を見いだすのがこのキャンプだと感じました。学生に話を聞くと、自分たちも一つの力になれることが実感でき、「介護はつらい」というイメージが変化したようです。

成長過程において必要な学びが、介護福祉にはあると思います。小学生や中学生、高校生にもこのキャンプの取り組みが活かせるようになれば素晴らしいです。未来の介護人材を生む活動を、教員としても、一介護福祉士としてもバックアップしていきたいと思っています。



第7回「さんえんキャンプ」での介護体験の様子

「介護に携わっている人が施設の外に出て、さまざまな層の人に向けて話をする機会を設けることが大切。介護業界を変えていくには、介護の魅力を言語化して共有する活動を、今後も地道に続けていくしかないと考えています」と、赤木副施設長は語る。

今年、高校生の参加も促していく予定だ。

「介護に携わっている人が施設の外に出て、さまざまな層の人に向けて話をする機会を設けることが大切。介護業界を変えていくには、介護の魅力を言語化して共有する活動を、今後も地道に続けていくしかないと考えています」と、赤木副施設長は語る。



介護体験の一環として、奥様のお墓参りに同行。墓地の立地などから、家族だけで連れていくのは難しかった



第7回「さんえんキャンプ」での施設見学。見学中は車いすで移動してもらい、自操の体験もしてもらった

体験後の学生へのアンケートでは「実習では知り得ない体験ができた」「入所者をよく理解し、その思いに込められていることが介護の仕事だと実感した」といった声が寄せられている。

「キャンプを通して、介護を学ぶ学生でも、介護に対して不安や偏ったイメージを抱いていることがわかりました。そういった学生

「これが施設単体の取り組みだったら、その施設のケア方針としか捉えてもらえず、その施設の魅力としか感じてもらえなかったはず。他法人との協働だからこそ、私たちの伝える介護の魅力が、介護現場全体の魅力として実感してもらえそうです」と、西川さんは協働の意義を強調する。

「私たちの取り組みを見て、『自分たちもやってみよう』と、いろいろなところに広がってほしい



学生と職員が交流し、介護の魅力について話し合う(第6回「さんえんキャンプ」)



第4回「さんえんキャンプ」に参加した皆さん

花苑と栄光の杜の見学を実施。同じ特別養護老人ホームでも、理念や方針、雰囲気などが多様であることを実感してもらおうのが狙いだ。夜は、近隣のキャンプ場に行き、職員と複数校の学生が宿泊し、パーベキューや花火などを通して交流を深める場としている。

2日目は、「願いをかなえる介護体験」として、利用者の願いをくみ取るプログラムを実行委員が毎回企画。お年寄りの思いに寄り添う体験を共にしてもらっている。

昨年は、ある男性利用者の「亡くなった妻の墓参り」という願いをかなえる活動を実施した。男性利用者の妻への心情を感じて、参加した学生が涙ぐむ姿も見られたという。

と直接話ができる機会を設けたことは、イメージの転換の良い機会になったと思います。実際、「将来、同じ職員の立場から介護のイメージを変えていく活動をしていきたい」など、熱意ある意見も多くもらえるようになっていきます」と、福泉さんは手応えを話す。

**協働活動だからこそ
介護現場の魅力が伝わる**

「さんえんキャンプ」は当初、1泊2日のキャンプ企画のみだったが、「泊まりは参加しづらい」という声を受け、平成28年からは「施設見学のみ」「1日介護体験のみ」など、活動の選択肢を増やしている。

「これが施設単体の取り組みだったら、その施設のケア方針としか捉えてもらえず、その施設の魅力としか感じてもらえなかったはず。他法人との協働だからこそ、私たちの伝える介護の魅力が、介護現場全体の魅力として実感してもらえそうです」と、西川さんは協働の意義を強調する。

老施協

2
Vol.571
FEB.2018

ROUSHIKYO

公益社団法人全国老人福祉施設協議会広報誌



第9回介護作文・フォトコンテスト受賞作品 和蛇田 公子さん/「幸よ、舞い降りろ〜」

特集1 各サービスの単位等が決定

2018年度 介護報酬改定の概要

特集2 第5回「中村ひろひこ賞」受賞施設紹介

社会福祉法人 湊流会
特別養護老人ホーム 草花苑 (東京都あきる野市)

社会福祉法人 ほうえい会
特別養護老人ホーム 栄光の杜 (東京都西多摩郡日の出町)

Topics

- 現場発信! タウンミーティング(広島会場)
さらなる発展をめざし
現場からの意見をもとに活発に議論
- 平成29年度生活相談員研修会
地域福祉の拠点を担うべく生活相談員のあり方・役割を学ぶ

キラリ! 施設紹介

社会福祉法人 尾道さつき会 (広島県尾道市)

連載

- 今月の修光Style
- ケアウォッチ!! 介護報酬・診療報酬同時改定を読み解く
- 介護人材確保・育成術
- 地域の未来をつくる 地域包括ケアシステム実現への挑戦